

様式 (6)

## 学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2865 号	氏 名	平野 あづさ
審 査 委 員 会	主 査 教 授	亀岡 信悟	
<p>論文審査の要旨 (400 字以内)</p> <p>論文のタイトルは「TRC 法による大腸癌術中腹腔洗浄液 CEA-mRNA 測定の意義」である。</p> <p>【目的】大腸癌術中腹腔洗浄液の微小癌細胞を検出し、TCR 法を用いた CEA-mRNA の測定と、腹腔内洗浄細胞診を行った。【対象】結腸癌 54 例と直腸癌 26 例、計 80 例を対象とした。開腹直後(開腹時測定)及び、直腸癌 26 例中 14 例での病変切除再建後の骨盤内洗浄液(直腸再建後測定)について測定した。その結果を臨床病理学的所見、再発の有無より検討した。【結果】単変量解析では、病変部位 (<math>p=0.0035</math>)、浸潤増殖様式 (<math>p=0.0230</math>)、肝転移 (<math>p=0.0321</math>)、細胞診と肉眼的腹膜播種転移 (<math>p&lt;0.0001</math>) が TRC 法と関連を認めた。細胞診・肉眼的腹膜播種を除いた多変量解析では、病変部位 (<math>p=0.0216</math>) が TRC 法と関連を認めた。TRC 法の術中播種所見に対する感度は 100%、特異度は 93.3%であった。手術時遠隔転移陰性の 66 例では、再発を 10 例に認めた。リンパ節転移陽性だけが、単変量 (<math>p=0.0272</math>)・多変量解析 (<math>p=0.0194</math>) とともに、再発と関連を認めた。TRC 陽性群に再発が多い傾向を認めた(再発率 25%)。直腸再建後測定 TRC 法では、TRC 陽性群に再発が多い傾向を認めた(再発率 60.0%)。【考察と結果】TRC 法は、従来の細胞診より、実際の診断で有効性が高く、また同時に全再発の予測因子としての有用性も示唆された。</p> <p>以上、本研究は臨床的に極めて意義があり、優れた論文である。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			